

新潟県立長岡聾学校

きこえ通信

令和6年度 第7号

<http://www.nagaokarou.nein.ed.jp/support.html>

当校 HP に
も掲載中!

新潟県立長岡聾学校 通級指導教室

〒940-0093 長岡市水道町 2-1-13

TEL 0258-38-0210 (通級指導教室)

FAX 0258-39-5665

*電話は18時までをお願いします。メールご利用ください。↓

e-mail school@nagaokarou.nein.ed.jp

発行：令和6年11月 担当：柳原

自分の聞こえをどう説明するか？



難聴がある人によっては、積極的に自分の聞こえのことを話す場合もありますが、あまり知られたくない、黙っている、と言う人もいます。

標記の取り組みを、中3生徒に対して行っています。小中学校は、知っている友達も多く、保護者の方と学校の先生方との連携で、安心して過ごせることが多いと思います。ところが、高校や大学等、就職先となると、知っている人も少なくなります。年齢的にも大人になることから、少しずつ、自分の聞こえや支援してほしいこと、理解してほしいことを、自分で伝えていくことが増えると思います。その時に、どのようなことを他の人から聞かれそうか、どう答えると良いか、参考資料をもとに、右のようなプリントを使用して学習しています。最終的には「聞こえのトリセツ」というパンフレットを作成し、それを活用して入学した高校で説明した生徒もいます。

今までの取り組みで生徒は「全部分かるわけではない。」、「小さい声や音は分からないこともある。」、「遠くから言われると分からないことがある。」など書いていました。また、学習後の感想としては、「きちんと説明しようと思った。」、「自分が伝えにくいと友達が代わりに言ってくれたが、高校では自分で伝えられるようにしようと思った。」などがありました。前回のきこえ通信の「高校入試の特別措置」とも関わりますが、自分はどんなことが苦手で、どう助けてほしいかを伝えられるようになってほしいと思います。今すぐに、100%できる必要はありません。少しずつで良いと思います。加えて、お礼もきちんと言うと、次回も気持ちよく協力してくれると思います。

耳に掛けて
いるの、何？

補聴器と言って、
音や声を大きくし
てくれる機械よ。

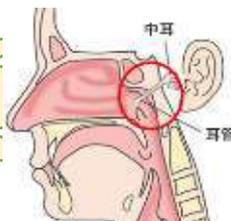
それをつけると、
人の話は全部
分かるの？

あなたが
この生徒なら、
どう説明
しますか？

「聴覚障害教育
これまでとこれから」より
(脇中起余子：北大路書房)

耳や聞こえに
影響がある
場合も…

風邪に注意！！



最近、風邪がはやっています。風邪を引くと鼻をかむ回数が増えます。そのため、耳と鼻をつないでいる耳管の周りで炎症を起こし、鼓膜が中に引き込まれてしまいます。その結果、耳管狭窄症や滲出性中耳炎と診断される場合があります。耳管狭窄症はトンネルの中のような聞こえ方になることがあり、滲出性中耳炎は伝音性難聴の原因の第1位と言われています。また、突発性難聴の原因の1つとしてウィルス感染があげられています。風邪などの感染症にかからないように手洗いとうがいの励行、栄養や睡眠を十分とる、かかったら早めの治療をお願いいたします。*西馬込あくつ耳鼻咽喉科、たまき耳鼻咽喉科、日本橋大河原クリニック、レイクタウンたけのこ耳鼻咽喉科 HP 参照



通級保護者会を行いました！



難聴がある子ども同士の結びつきは自己理解、他者理解、安心のために大切ですが、保護者の方同士の結びつきも同様に大切です。聾学校在籍だと、保護者会や保護者対象の勉強会が年に何回かあります。通級でも年1回、保護者会を実施しています。昨年度からは、千手小学校の保護者の方にもお声がけして一緒に開催しています。保護者会では難聴について改めて知るだけでなく、他の保護者の方と話すことで「うちの子だけか」と思っていたが、同じ人がいて安心した」「今まで会ったことがなかったけど、同じ立場の人の話が聞けてうれしかった」などの思いをもっていただくことができ、大切な機会と考えています。



今回は、小中高の児童生徒の保護者の方4名が参加されました。内容は、1 当校職員で難聴のある先生のお話、2 担当による合理的配慮について情報提供、3 保護者の方同士の情報交換の3つを柱に行いました。

1では、当校の難聴のある先生が、小中高大、教員生活について、話してくれました。友達に頼んでノートを見せてもらったこと、楽しそうな話が聞き取れず寂しい思いをしたこと、保護者の方はご自身のお子さんのことを考えながらお聞きしたそうです。担当者としては、「自分だったらここまでできるかな?」と、改めて頭が下がる思いでした。

2では、「合理的配慮の申請を自分から行うこと」ということをお伝えしました。令和6年4月からの「合理的配慮の全面義務化」は記憶に新しいことと思います。ポイントは「自分からの申し出」と「話し合い」です。制度が整っていても、自分から申し出ないと始まりません。またお願いしても「うちの会社ではそれは難しいです」と言われた場合は、感情をあらわにしたり、諦めたりするのではなく、話し合っ「代わりの方法」などを見つけるのが大切とされています。また、お願いするときに、「すみませんが」「今、お時間よろしいでしょうか」などの「クッション言葉」を言ってから伝えるとスムーズということもお伝えしました。

3では、保護者の皆さんで、大いに語り合いました。感極まったり、「それ、うちも同じこと言われた!」と共感したり、「この会に来て良かった」とのお言葉があったり、先輩お母さんのアドバイスにうなずいたり…。最後に「これからもこのような会があるといい」、「情報共有できて良かった。続けてほしい」、「先生の実体験が聞いて参考になった」、「いろいろな話が聞けて良かった」などの感想をいただきました。参加された方、お話をしてくださった先生に感謝申し上げます。



ロジャー(補聴援助システム送信機)、

そうだったのか!



いくつかの学校で、補聴器に直接話し声などが届く、補聴援助システム送信機(以下ロジャー等)を使用いただいています。授業で先生が首に下げて使うだけでなく、次のような使い方があります。使用している児童生徒のきこえにもよるので、まず、児童生徒、保護者の方とご相談ください。



1 放送機器に接続する

すでに実施していただいている学校もあります。体育館等の放送機器にロジャー等を接続すると、マイクにロジャー等が同期され、普通にマイクで話しても、ロジャー等を使用している時のように補聴器に直接話し声が届きます。特に、式典などで複数のマイクを使う場合にロジャー等の持ち運びがなくなります。また、レクリエーションで周囲の音が大きい場合に司会の方が指示を出すなどのような場合に役立ちます。ロジャー等の種類によってはTV等へも接続できます。放送機器への接続方法は、当校へご相談ください。

2 グループ学習で

横置きできる「ロジャー タッチスクリーン」の説明で「グループ学習の時は真ん中に」と以前にお伝えしたと思います。先日の勉強会で、「ロジャーを置く場所を少しでも高くして話す人の口元に近づけると、よりはっきり話し声が入る」とお聞きしました。ペンケースなどの上でも良いそうです。

